

## 一ノ倉沢衝立岩雲稜第2ルート 山行報告

(山城) 谷川連峰

(コース) 一ノ倉沢衝立岩雲稜第2ルート

(日時) 2018年8月19日(夜)~20日

(天候) 晴れ時々曇り

(参加者) 前田、松原

(山行タイム)

8月19日(日)

18:00 千葉出発→21:00 土合駐車場→23:00 就寝

8月20日(月)

3:00 土合駐車場出発→3:50 一ノ倉沢出合到着→テールリッジ→6:00 衝立岩中央稜取付き直下→

7:20 アンザイレンテラス→7:35 雲2登攀開始→14:40 ピッチ目終了点からエスケープ開始→16:

00 北稜下降開始→17:00 ピナクル(北稜下降終了)→衝立前沢下降→18:45 一ノ倉沢出合→20:00 土

合駐車場→帰葉



(山行報告)

今年の5月に登った谷川岳衝立岩のダイレクトカンテ。核心の2ピッチ目を登り終わった終了点は衝立岩の大ハングのすぐ右下。前田さんをビレーしつつ背後の大ハングに残置された支点を眺め、本当にこんなところを登っている人がいるんだなと思った。そんなところを登ってきました。

8月19日(日)

18:00頃に千葉で前田さんと合流、高速に乗る前にファミマに寄ってみるとおいしそうなパンがたくさんある。明日の行動食のためにどのパンを購入しようか悩んでしまった。これからはファミマを積極的に選びたい。早く出発したおかげで水上には20:30に到着。セブンイレブンに寄って今夜のお酒などを購入し、21:00に土合駐車場へ到着。お酒を飲みながら準備を始める。23:00頃に就寝。

8月20日(月)

2:30起床の予定、昨夜に飲みすぎてしまったようであらうだしてしまった。前田さんに急かされてなんとか3:00過ぎに出発。一ノ倉沢出合には3:50到着。そんなに急いで歩いたつもりはないが、意外に早く着いて、まだ真っ暗。ここまで来てもまだ眠く、トイレを済ませてから少し横になって休憩。だんだん明るくなってきた。トイレの脇の水場で水を汲んで出発。テールリッジを登って、6:00衝立岩中央稜の取付き下部に到着。ここでしばらく休憩。食事をとりながらハーネスやガチャなどの装備を整える。前回のダイレクトカンテの時にはここで



一ノ倉沢、夜明け

予想外に時間を食ってしまい、出発が遅れたので、今回は急いで準備を整えようと思ったが、今回もここでかなりゆっくりしてしまった。準備中に私のフリースが無いのに気づいた。たぶん土合から出合の途中で暑くて脱いだ時に置き忘れたのだろう、帰りがけに落ちているといいな、と思ったが無かった。そんなことよりも、今夜ビバークになったらかなり寒いな。7:05出発、7:20アンザイレンテラス到着。そんなに広くないテラスである、ここでロープを結ぶ。今回もリードの順番を決めるためにじゃんけんをした。勝者が1ピッチ目(奇数ピッチ)担当、松原の勝ち。

準備を進めていると、テラスは草付きからの熱気でかなり暑い。上の壁を見ると、草が風にそよそよと揺れて涼しそう。早く登りましょう。

#### ・1ピッチ目

テラスから上を眺めると、ピカピカのリングボルト、最近打たれたものだろう。トポと見比べて、ルートはこのリングボルトの方向のようだ。7:35クライミング開始。ピカピカのリングボルトにアブミをかけて乗り込み、その先を見るとすぐそこに同じようなピカピカのリングボルトが打たれている。さらにピカピカのリングボルトは続く、だんだんとハンガーボルトも混じってきた。特に怖い部分はなく1ピッチ



1ピッチ目、眠い

目終了点に到着。なんだか拍子抜けである。事前の下調べから、信用のできない支点とぐらぐらの岩に怯えながら慎重に登るようなルートを想定しており、相当に緊張していた。怖いのは嫌けど安心すぎるのもなんだかな。とりあえず安心してビレーに移る。

### ・2ピッチ目

前田さんリード、8:20 出発。このピッチも安心の支点しかない。ピカピカのリングボルトとハンガーボルト。このピッチの終了点は鳥型をした白い岩の右上。鳥はさっぱり認識できなかったが、それっぽいフレックの右上を目指して登るとそこが終了点。終了点の直下に巨大な浮石があり、恐らく落ちる寸前。後続のパーティはいないので人は殺さなそうだが、落とした岩がロープを切るのではないかと不安だった。岩を刺激しないようにそーっと登って、終了点へ。

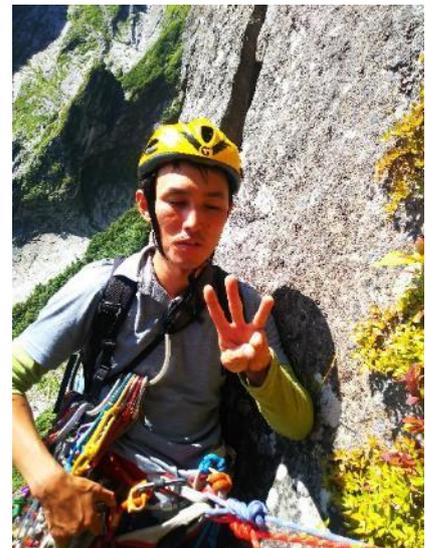


2ピッチ目、ルートチェックで余裕なし

### ・3ピッチ目

松原リード。ビレー点から大ハングを眺める、ものすごいハングだ。少し遠いので支点が良く見えず、どんなラインを通るのか詳しくはわからないが、ハングの真ん中より少し右に支点が多く見える。

9:30 クライミング開始。すぐそこにあるハンガーボルトにランナーをとると、そこからピカピカの支点は無くなる。さっそくぼろいハーケン。あとから思うとまだ割としっかりしていたが、ピカピカの支点に慣れた心には不安が大きかった。自分のハーケンを打ち足そうかどうか悩んでもたもたしてしまっただが、心を決めてぼろいハーケンにアブミをかけて体重をかける。なんとなく安定していた。ここで少し心が慣れたので少しすんなり進めた。だんだんと大ハングが近づいてくる。



3ピッチ目、気が重い

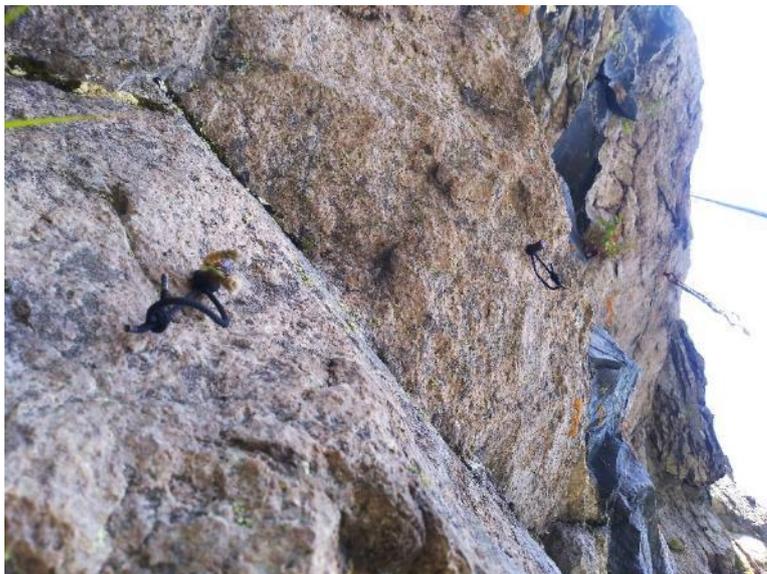
大ハング直下、登るラインを探す。左右に一本ずつ残置支点の続くラインがあるが、左のラインはすぐそこで途切れていそう。右の支点が先まで続いているとは確認できなかったが、ビレー点で見た様子からか右のラインが安心に思った。右のラインを観察する。直近3つくらいの支点は、リングのとんだリングボルトに細スリングが数本巻かれている。しかし、その細スリングのほとんどが切れている。切れていないものでも、安心して体重を預けられそうなもの



大ハング

はなさそう。その先の支点の様子は見えない。ハングの下でしばらく進退を悩んだ。ハングを登り始めれば敗退は難しくなる、それよりもまず、落ちずにこのハングを抜けられるのか？

どう決心したのかは忘れたが、登り始めた。まずハング1ピン目の残置スリングをナイフで全部切り、持参の3mmスリングにかけ替えた。とりあえずこれで一安心。アブミに乗って次の支点へ。次の支点は残置のスリングがかなり多くて切るのが面倒な上に生き残ったスリングは苔の生えたぼろ。不安に思いながら生き残りのぼろにアブミをかけて体重を乗せるとギリギリと伸びる。かなり不安に思いつつも体重を預けて次の支点へ。作業中にぼろスリングを確認すると、外皮が切れて芯むき出しの状態になっている。ピ



ハングの支点、細スリングは自前のおニュー

タッと行動を止めて考える。これは切れる、切れたら落ちる。まだ次の支点には届いていない。そーっと動いて自分の細スリングを今の支点に巻き足してアブミをかけ替えた。とりあえず一安心。ここからはなるべくこまめに残置スリングを切って持参の3mmスリングを巻きなおした。悪いのはスリングだけではなく、ちぎれかかったリングやちぎれかかったハーケンも。様子がよくわからないハーケンにチョンボ棒を使ってアブミをかけ、それに乗り込むのも恐ろしかった。

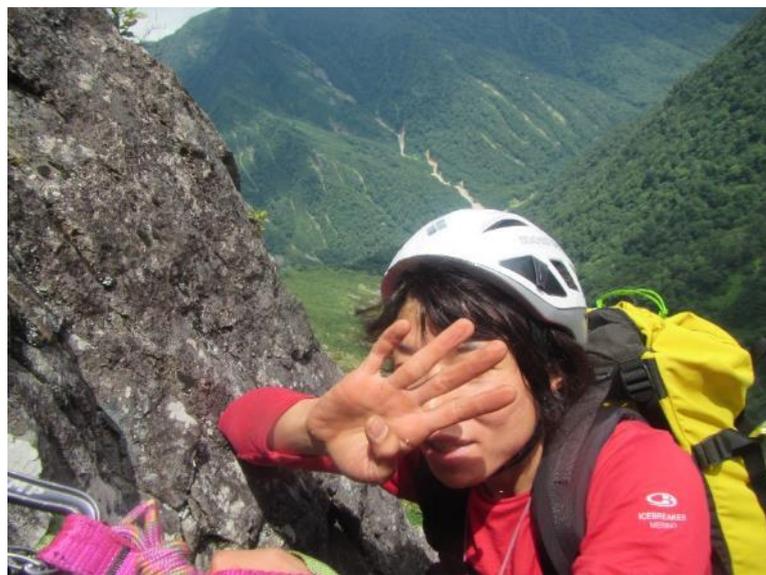
かなり時間がかかってしまっている。前田さんのいるビレー点は日当たり抜群。時間を聞くと3ピッチ目を登り始めてすでに1時間半、ハングを越えるのにもう少しかかり、垂壁をもう少し登ってからビレー点へ11:20到着。ここは足場が悪くハンギングビレー。ハーネスでぶら下がるのは腰に辛かったが、アブミを支点にかけて座れるようにしてみたら楽になった。このビレー点で前田さんと合流したのは12:35。

#### ・4ピッチ目

前田さんリード。もう疲れ切っているが、次のピッチはグレードが低くなるから、と油断していた。しかしそんなに甘くなかった。

少し登ってから前田さんの動きが鈍くなった。最初は疲れかと思ったが、そんな感じではない。ルートファインディングに悩んでいるのかとも思ったが、それはあったかも。とにかく甘くないピッチでした。

前田さんがリードで出発したのが



4ピッチ目、なんだか楽しそう

12 : 45。このピッチの終了点で前田さんと私が合流したのが 14 : 35。

上まで抜けるのは時間的に難しいと考え、ここで途中敗退、北稜へエスケープ。北稜は何度も下降しているため親近感を感じていたため、容易に合流できると思っていたが、ここでも苦勞した。4ピッチ目の終了点からロープをつないだまま踏み跡らしいところを右へトラバースしていく。樹林帯へ入り、もう少し進んだところで踏み跡が消えた。右へそのまま進むか、少し戻って下へ下るか、右上に登るか悩む。右上へ登った。ぐらぐらの灌木をつかんで登ったが、根こそぎ剥がれないか気が気ではない。少し進むと笹藪になって一安心。少し進むと太めの立木、その先は露岩になっており、行き詰ってしまった。ここでまた行ったり来たりして悩んだが、右下に太い立木があり、そこが北稜の下降ルートであると思ったので、ここで前田さんと合流してから懸垂下降をしてその木を目指すことにした。

セルフを取って前田さんに解除のコール。声はかろうじて届いた。藪を進んだので手繰るロープが重い。窮屈な姿勢で何とかビレーをして、やっと前田さんと合流。ビレー中にだんだんとガスが出てきており、合流したころには辺りは真っ白、目指す立木は見えなくなってしまっている。だいたいの方向はわかるので、景色を事前に視認した松原が先に下降する。下降を開始するとすぐそこに踏み跡が、北稜の下降路である。ほっと一安心。ここからは見覚えのある道を数ピッチで下降。17 : 00 にピナクルに到着、懸垂下降終了。



懸垂下降開始、ぐちゃぐちゃの下降支点

ここで少し休憩。パンを食べようかとザックを開けると、荷物が少ないのに気づいた。北稜の下降中にクライミングシューズを登山靴に履き替える際、非常食と小物入れを草付きに置いた、これを回収し忘れてしまった。ヘッドランプや予備照明、非常食の袋にはキャンプのハーネスの収納袋を使っていた、気に入って使っていた道具ばかりなのに、悲しい。そんなことに気を取られていたのか、このピナクルでもカラビナを一つ回収し忘れてしまったことに後日に気付いた。

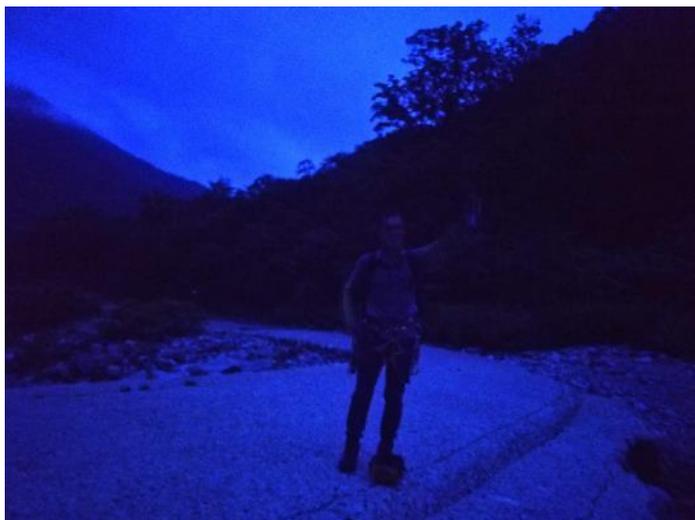
この後は衝立前沢を下るだけなので大して危ない箇所はない。予定より下山が遅れそうなので、ピナクルで山行管理の池田さんに途中経過を報告した。

衝立前沢を下る。ヘッドランプを無くしたこともあり、日没までに出合まで下りたい。順調に沢を下ってきたが、沢の末端で一ノ倉沢との合流部分に巨大なスノーブリッジが。この下をくぐ



スノーブリッジ

るのか、恐ろしい。左側の岩を登って巻けそうなので前田さんに提案するが却下。なるべく静かにさっと通過した。あとはヒョングリの滝のわきを懸垂で下降し、出合まで沢下り。18:45 出合に到着。携帯の電波をチェックすると、かろうじて電波があるのでここで池田さんに下山連絡。あとはゆっくりと舗装路を土合まで歩き、土合駐車場には20:00 到着。無事に帰って来ることができました。



一ノ倉沢出合に到着